

平成26年度 学力向上検証委員会のまとめ

1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、次年度の施策の改善に生かす。

2 期日

・第1回 平成26年9月9日（火） ・第2回 平成27年1月21日（水）

3 会場

県庁舎本館6階大会議室2

4 学力向上検証委員

9名（大学教授、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県都市教育長協議会代表、県町村教育委員会教育長会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表）

5 主な意見

(1) とちぎっ子学習状況調査

【調査全体】

○ 本調査が全員参加方式で実施されたことで、児童生徒一人一人の学習の状況を把握し、個に応じた支援の充実を図ることができた。

【個に応じた支援】

○ 児童生徒に、調査結果を分かりやすく示した「個人票」を配布し、強みと課題を明確にすることができた。

○ 課題解決のために、復習用資料「フォローアップシート」を配布し、主体的な学習を促した。本資料の具体的な活用方法について情報提供を希望する。

【調査問題】

○ 調査問題は学習指導要領に基づき作成され、身に付けるべき能力の習得状況を把握する上で良問であった。

【教師の指導力】

○ 各学校に配布された「授業改善例」は、教師の授業改善を図る上で、具体的に分かりやすく、有効な資料であった。

○ 多くの教員に調査結果に基づく資料の活用方法を周知するために、総合教育センターの研修等で、意図的・計画的に活用することを期待する。

(2) 学力向上アドバイザー派遣事業

【事業全体】

○ 派遣指定校は、おおむね本事業を好意的に捉えている。

○ 学校の組織マネジメントや検証改善サイクルの構築、運用に支援の力点を置いているところがよい。

【今後の支援】

○ 今年度の派遣指定校について、学校の求めがあれば、次年度以降も何らかの手立てで支援することができないか、学力向上アドバイザーの増員を含めて検討を求める。

○ 次年度の調査結果を基に、今年度の派遣指定校の取組について検証する必要がある。

(3) 保護者への啓発

【啓発資料】

○ 調査対象学年の保護者に配布したリーフレットは、分かりやすい資料であり、全保護者に配布することを希望する。

○ 小学校1年生から中学校3年生までの9年間の中で、児童生徒の発達の段階を考慮して、発信していくことが重要である。

6 委員長の総括

この事業は今年度から本格的に実施されたことから、本委員会ではこの事業に関わる施策全体について、各委員から意見をいただいた。それぞれの施策について、各委員から「おおむね良好である」との意見や「さらに充実を求める」との要望も出された。

今後は、県教育委員会において、本委員会が出された意見を参考にしながら、この事業に関わる施策の有効性を、次年度の調査結果を基に検証することを希望する。また、市町教育委員会と一層の連携を図りながら、児童生徒一人一人の学力向上に向けた取組の充実を期待する。